

第1回 山口県海岸保全基本計画検討委員会 議事要旨

日 時 : 令和7年6月6日(金) 10時~11時40分

場 所 : 山口県庁4階 共用第2会議室 (WEB 併用)

出席者 : 検討委員会委員 (14名出席)、オブザーバー (2名出席)

議 事 : ① 山口県における平均海面水位の上昇量の設定値について

② 今後の海岸保全対策について

議事①への主な意見

- ・日本の気候変動 2025 が公表されたが、海面上昇量 1 cm程度の差であれば、施設整備時に余裕高で調整可能であり、影響は小さいことから、昨年度の技術検討会で設定した 39 cmで良いと考える。
- ・海岸保全基本計画は、日本の気候変動 2025 以降に完成することから、最新知見を可能な限り含めた形で設定した方がよいと考える。
- ・日本の気候変動 2025 の最新知見を活用するのであれば、海面上昇量は北沿岸 40 cm、南沿岸 39 cmと数値が異なることから、設定が複雑になるため、北沿岸・南沿岸で数値を統一すべきと考える。

【委員長とりまとめ】

海面上昇量は、最新知見を踏まえて検討したが、影響が小さいこと、設定が複雑にならないようにするために、技術検討会で検討した 39 cmで統一することとする。

議事②への主な意見

- ・気候変動による不確実性を踏まえ、まずは 2075 年時点の海面上昇量+潮位偏差を見込んだ水準までの施設整備を行った方が良いと考える。
- ・将来における海面上昇量の確信度は高いため、初めから 2100 年まで見込み、潮位偏差は不確実性を考慮して、増大量を按分して設定する案もあると考えられる。
- ・水門等の大規模施設では、将来の施設改良に手戻りが大きくなる可能性があることから、初めから想定される最大値を見込む考え方もある。
- ・気候変動の影響を考慮した施設整備とすることで、事業費が多少増加しても、背後地の安全性が確保されることの方が重要だと考える。
- ・高スペックな施設を整備するとなると施工スピードが低下してしまうため、確信度が低い要素は見込まず施設整備を進めた方が得策であるという考え方もある。
- ・市の財政状況を踏まえると、天端高を抑えることで進捗率が上がるため、基本的な考え方は整理されても、実際には実施が困難となる懸念がある。
- ・可能な限り手戻りを少なくしたいという思いがある一方で、観光地などは景観への配慮も必要であり、天端高の設定については判断に悩むところである。

【委員長とりまとめ】

本日の検討委員会では様々な意見が出されたが、追加で意見がある場合は事務局に連絡すること。また、意見は連絡調整会議等を通じて幅広く集約し、第2回検討委員会時に提示される事務局案に対して、改めて議論を行うこととする。